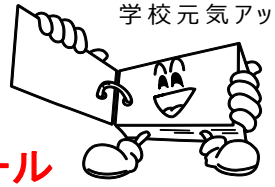
学校元気アップからのお知らせ

令和２年10月吉日
大阪市立東中学校
学校元気アップ地域本部



夏の暑さが過ぎ去って気温が低くなる秋は集中しやすい季節です。人間の集中には気温や湿度が関係しており、さまざまな研究報告を見ると22度前後の気温が集中することに適しているようです。ゆっくり読書をして過ごすのにも最適な季節ですね。

晴れているときの風・陽光の心地よさは今の時季ならではです。終戦の2年後の1947年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そしてマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

第1回「読書週間」は11月17日から23日でした。これはアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が11月16日から1週間であるのにならったものです。各地で講演会や本に関する展示会が開かれ、読書運動を紹介する番組が作られました。今の10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）になったのは、第2回からです。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらうきっかけとなることを願っています。

（公益社団法人 読書推進運動協議会 参照）

テスト前学習会のお知らせ

10月は8日（木）・9日（金）に中間テストが行われます。
元気アップでは10月1日～8日（土・日除く）まで図書室を中心に「テスト前学習会」を開きます。別途、参加申込書を配布し受付を行いますので都合のつく日時には、短時間でも参加してみてください。

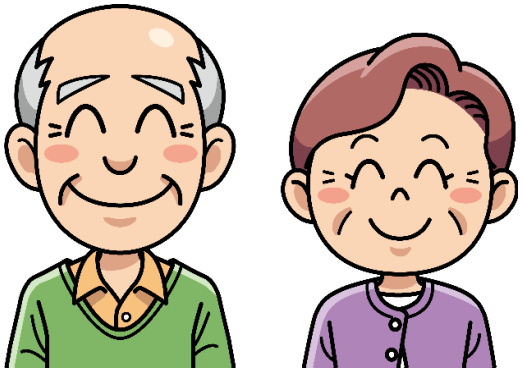
10月図書室開館スケジュール

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
28	29	30	01 昼	02 昼	03	04
			テスト前勉強会 16：30まで	テスト前勉強会 16：00まで		
05 昼	06 昼	07 昼	08 テスト1日目	09 テスト2日目	10	11
テスト前勉強会 16：00まで	テスト前勉強会 16：30まで	テスト前勉強会 16：30まで	12：30～ 14：20	×		
12 昼	13 昼	14 ×	15 昼	16 昼	17	18
×	放課後 16：30まで	×	×	×		
19 昼	20 昼	21 昼	22 昼	23 昼	24	25
放課後 16：30まで	放課後 16：30まで	放課後 16：30まで	放課後 16：30まで	放課後 16：30まで		
26 昼	27 昼	28 昼	29 昼	30 ×	31 ×	01
放課後 16：30まで	放課後 16：00まで	放課後 16：30まで	×	×	×	

ボランティアをして頂ける方は学校までご連絡ください。
学校電話　06-6941-0195（元気アップ担当まで）

「若い人に贈る読書のすすめ」

若い人たちが本を読まなくなったといわれて、久しくなります。年上の人たちのこの言葉は 、若いときこそ本を読むべきであったという、後悔の言葉でもあります。あなたのみずみずしい感性、好奇心、柔軟な思考、そうしたものを豊かに持ちあわせている ＜若いとき＞に読書をすることは、のちの生き方に必ず大きな実りをもたらします。あなたが読書を日常のなにげない習慣にすれば、思いもかけない幸せな「本との出会い」が、きっとやってくるにちがいありません。



読書の秋の由来

「読書の秋」の由来として多く語られるのが、古代中国の漢詩です。詠んだのは唐代の詩人として高名な韓愈（かんゆ）で、時代は8世紀頃とされます。問題の漢詩というのが「符読書城南詩」で、学問の大切さを伝えています。その中に以下のような一説が登場します。

『時秋積雨霽、新涼入郊墟。燈火稍可親、簡編可巻舒』

これを日本語に置き換えると、「秋になり長雨があがって空も晴れ、涼しさが丘陵にも及んでいる。ようやく夜の灯に親しみ、書物を広げられる」というような意味です。

この一説がきっかけで、涼しい秋の夜は読書に適しているという考えが浸透したと言われています。昔の人も、暑い夏が終わってゆっくり読書できる秋を心待ちにしていたのかもしれません。

＜日本では夏目漱石の小説がきっかけ＞

「読書の秋」の考えや習慣が日本に根付いたのは、有名作家・夏目漱石が1908年に発表した小説「三四郎」のなかで「そのうち与次郎の尻が次第に落ち付いて来て、燈火親しむべしなどという漢語さえ借用して嬉しがるようになった」を引用したことがきっかけとされています。

つまり、与次郎は三四郎の友達で少々オッチョコチョイな男なのですが、彼が尻を落ち着け、「燈火親しみ」何をするかといえば、やはり「読書」…それは当時も今もそう思われているよう